

## 市民活動団体に関する実態調査

- |            |                  |
|------------|------------------|
| 1. 調査実施日   | : 平成15年7月        |
| 2. モニター数   | : 474            |
| 3. 回収サンプル数 | : 318 (回収率67.1%) |
| 4. 有効サンプル数 | : 318            |

### 調査結果

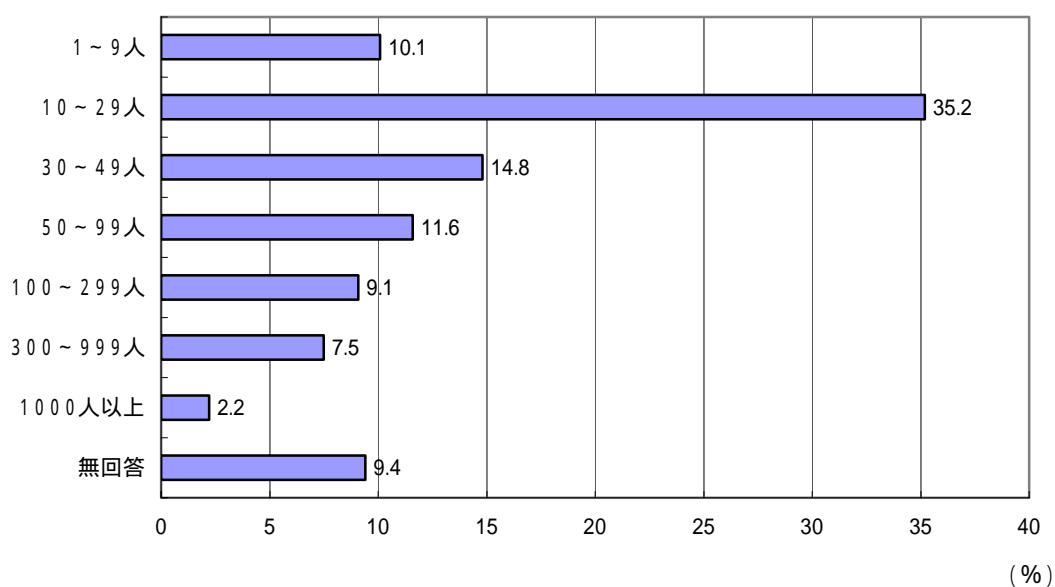
#### 1 市内の活動団体の現状

##### (1) 団体の会員数

活動団体の中の会員数は10人にも満たない小さな団体から、会員数2万名という大きな団体までであるが、1番多いのは10～29人(35.2%)、2番目に多いのが30～49人(14.8%)、3番目に多いのが50～99人(11.6%)であり、49人以下の団体が60.1%を占めた。

##### (1) 団体の会員数

N=318

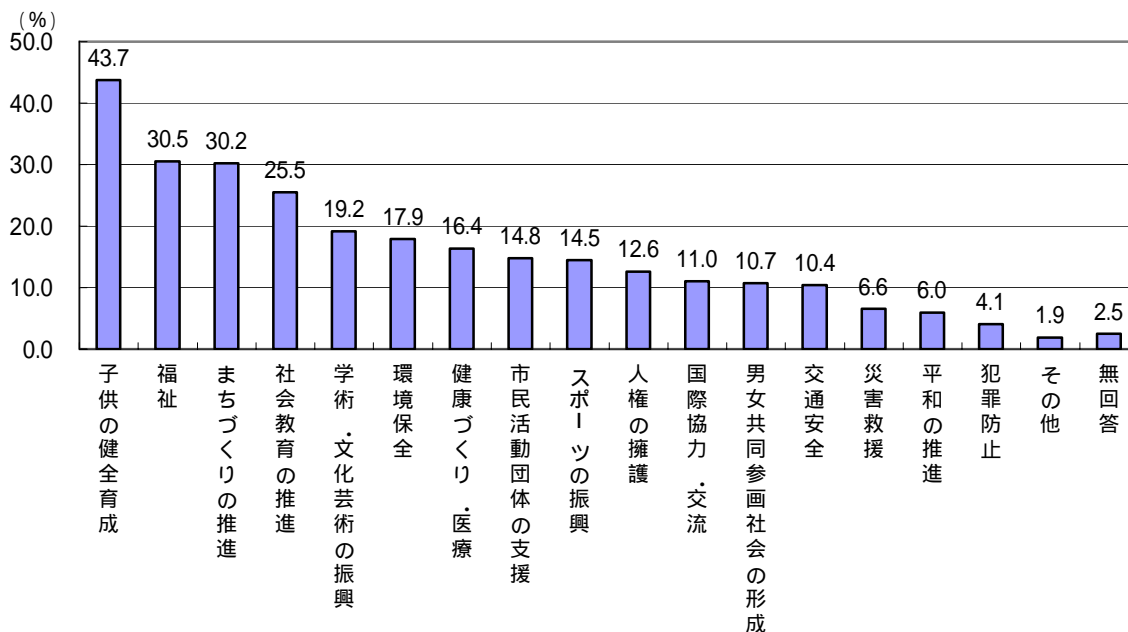


## (2) 団体の活動分野 (複数回答可)

最も多かったのは「子どもの健全育成」(43.7%)、このほか比較的多くあげられていた活動としては、「福祉」(30.5%)、「まちづくりの推進」(30.2%)、「社会教育の推進」(25.5%)であった。回答が比較的少ない活動内容は、「災害救援」(6.6%)、「平和の推進」(6.0%)、「犯罪防止」(4.1%)であった。

## (2) 団体の活動分野

N = 318



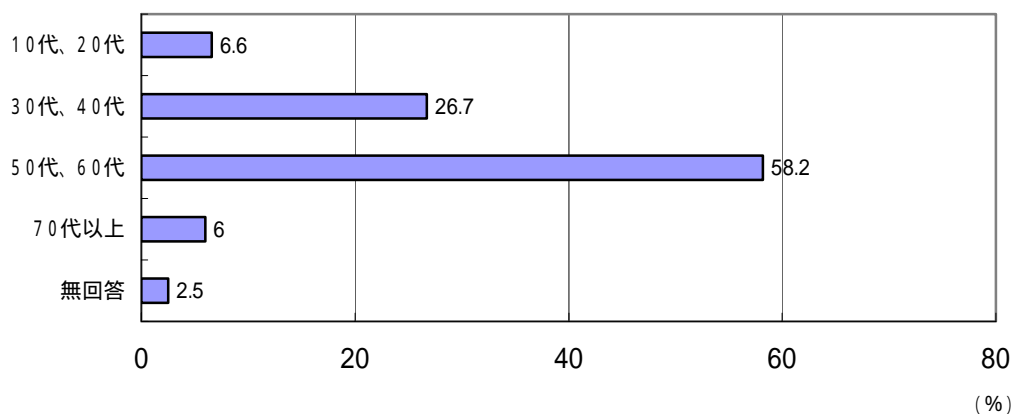
## 2 市民活動団体の組織の特徴と課題

### (1) 会員の主な年齢層

会員の主な年齢層は「50代、60代」(58.2%)が圧倒的に多く、その次に「30代、40代」(26.7%)と続いている。「10代、20代」は6.6%と少なかった。

### (1) 会員の主な年齢層

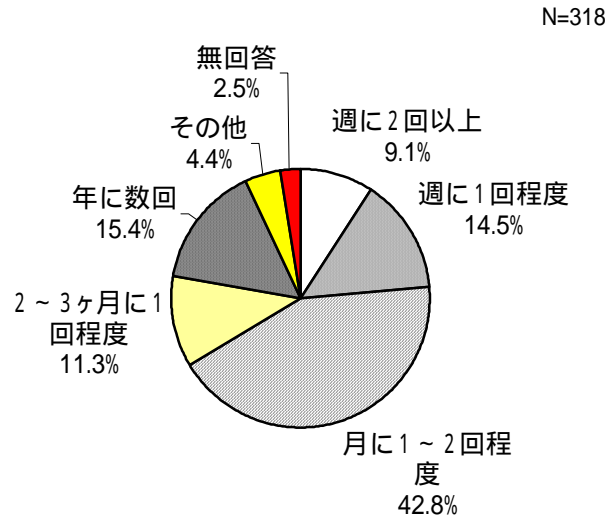
N=318



**(2) 団体の活動頻度**

「月に1～2回程度」が42.8%と半数近くを占め、「年に数回」(15.4%)、「週に1回程度」(24.5%)、「2～3ヶ月に1回程度」(11.3%)と続いている。

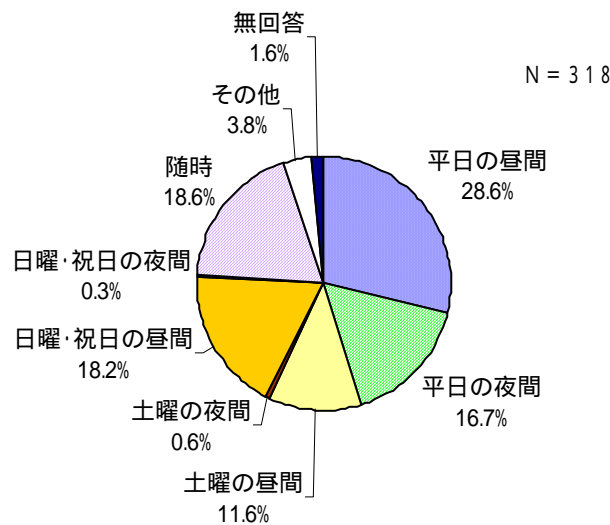
**(2) 団体の活動頻度**



**(3) 団体の主な活動時間帯**

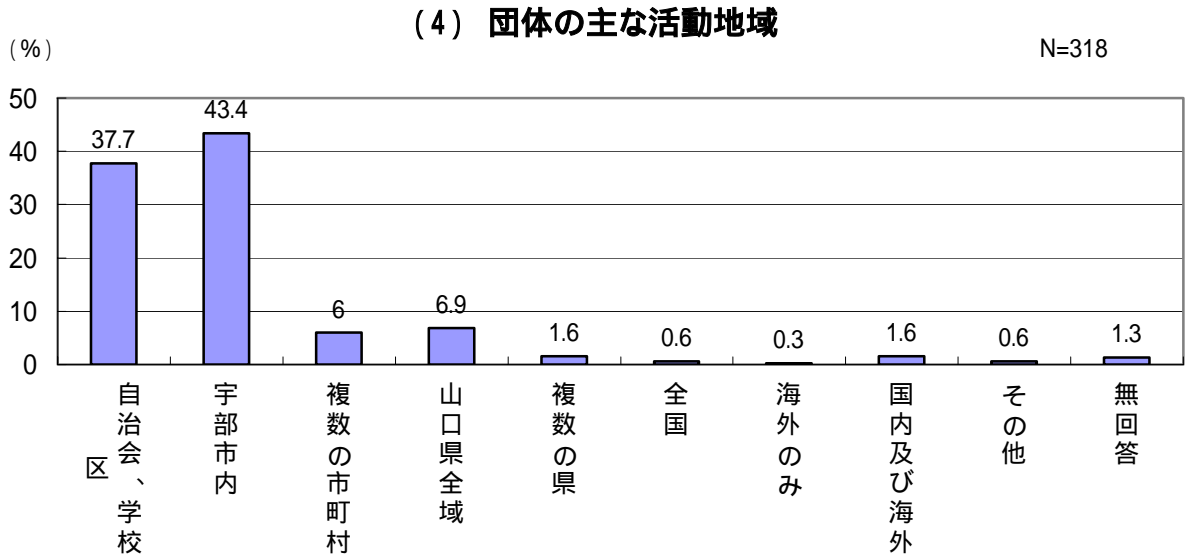
「平日の昼間」(28.6%)が最も多く、次に「随時」(18.6%)、「日曜・祝日の昼間」(18.2%)、「平日の夜間」(16.7%)、「土曜の昼間」(11.6%)と続いた。

**(3) 団体の主な活動時間帯**



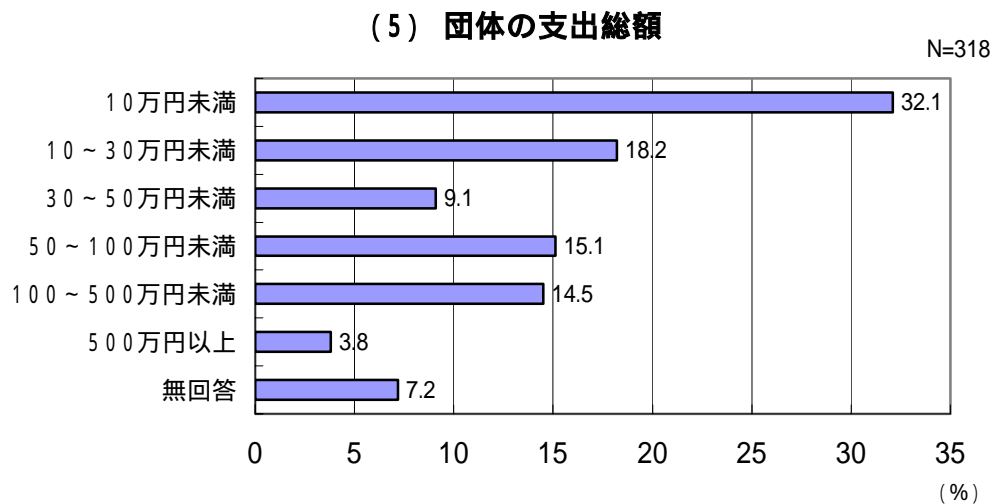
#### (4) 団体の主な活動地域

「宇部市内」(43.4%)が1番多く、2番目が「自治会・学校区」(37.7%)で、この2つで8割以上を占めているが、複数の市町村(6.0%)、山口県全域(6.9%)など広域で活動している団体も見られた。



#### (5) 団体の支出総額(平成14年度実績)

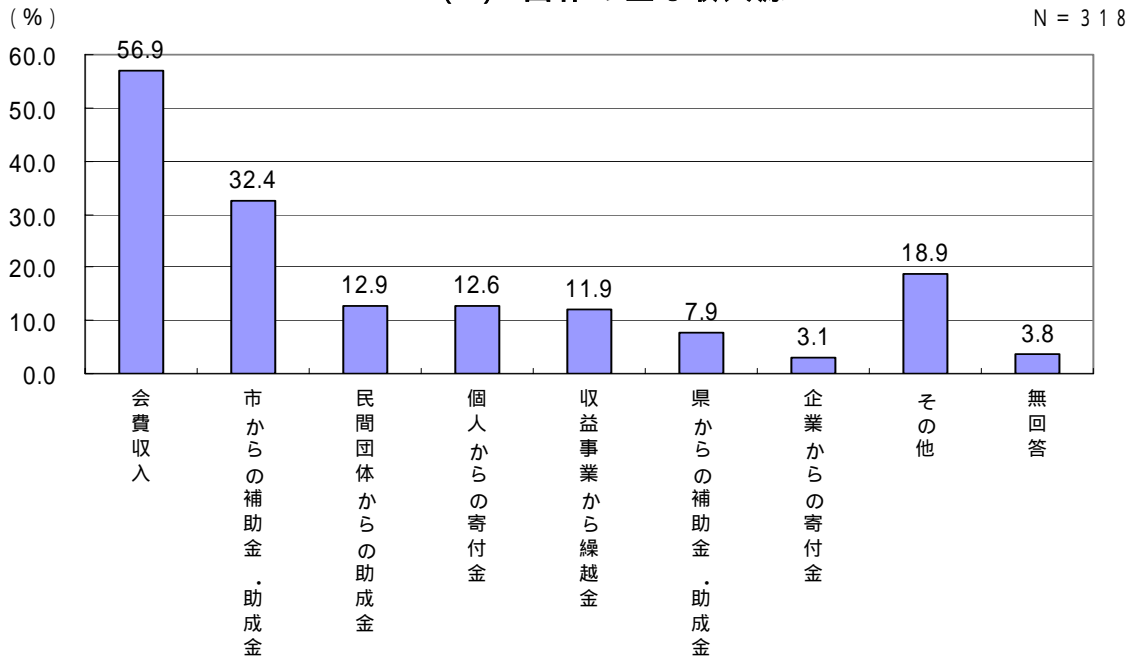
「10万円未満」(32.1%)で最も多く、2番目が「10～30万円未満」(18.2%)であり、50万円未満が59.4%と6割を占めた。一方、「500万円以上」の団体も3.8%あった。



(6) 団体の主な収入源(複数回答可)

「会費収入」(56.9%)が一番多く、2番目が「市からの補助金・助成金」(32.4%)であり、「企業からの寄付金」(3.1%)が一番少なかった。

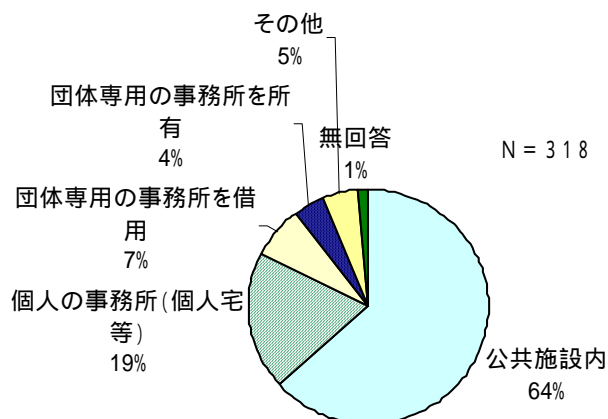
(6) 団体の主な収入源



(7) 団体の活動拠点

「公共施設内」(64%)が大半を占め、次いで「個人の事務所」(19%)と続いている。また、団体専用の事務所がある団体が11%あった。

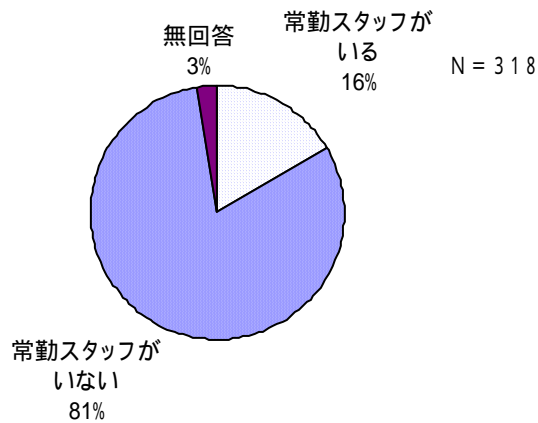
(7) 団体の活動拠点



(8) 常勤スタッフの存在

「常勤スタッフがいない」(81%)が大半を占めているが、常勤スタッフがいるも16%あった。

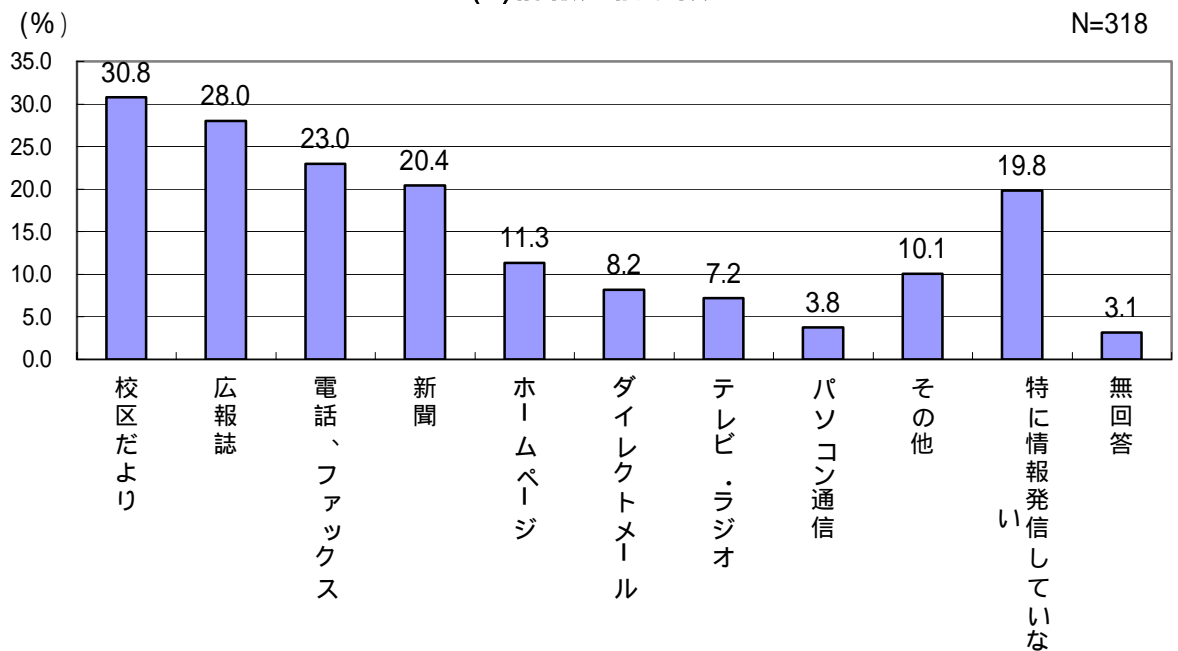
(8) 常勤スタッフの存在



(9) 情報発信手段(複数回答可)

「校区だより」(30.8%)が1番多く、2番目が「広報誌」(28.0%)、3番目が「電話・ファックス」(23.0%)、4番目が「新聞」(20.4%)と続いている。「特に情報発信していない」(19.8%)団体もあった。

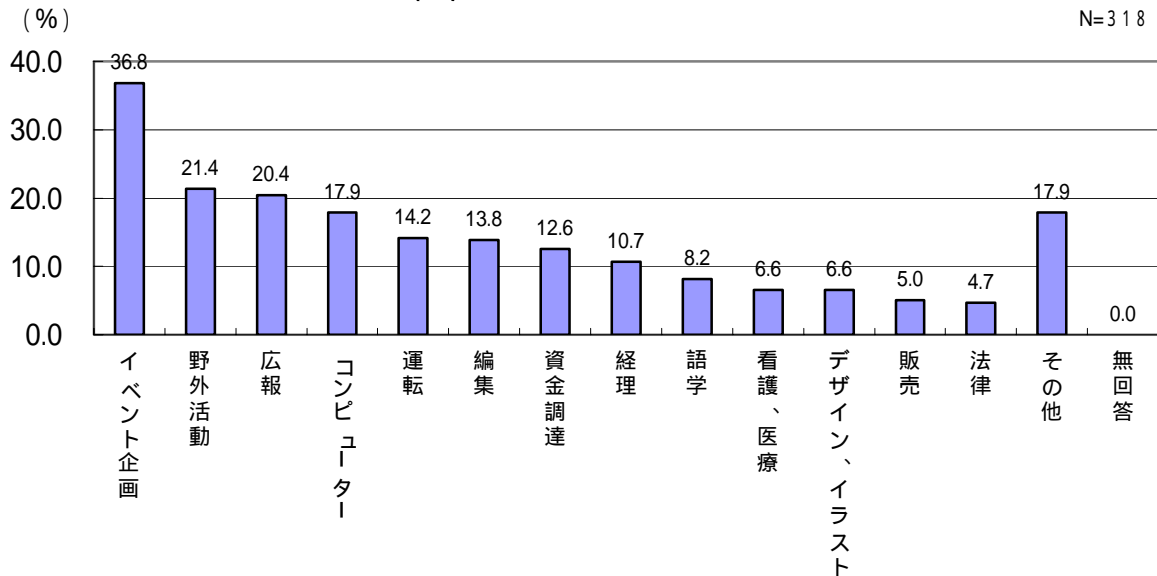
(9)情報発信手段



(10) スタッフに必要な知識、技能(複数回答可)

「イベント企画」(36.8%)が1番多く、2番目が「野外活動」(21.4%)、3番目が「広報」(20.4%)、4番目が「コンピューター」(17.9%)であった。

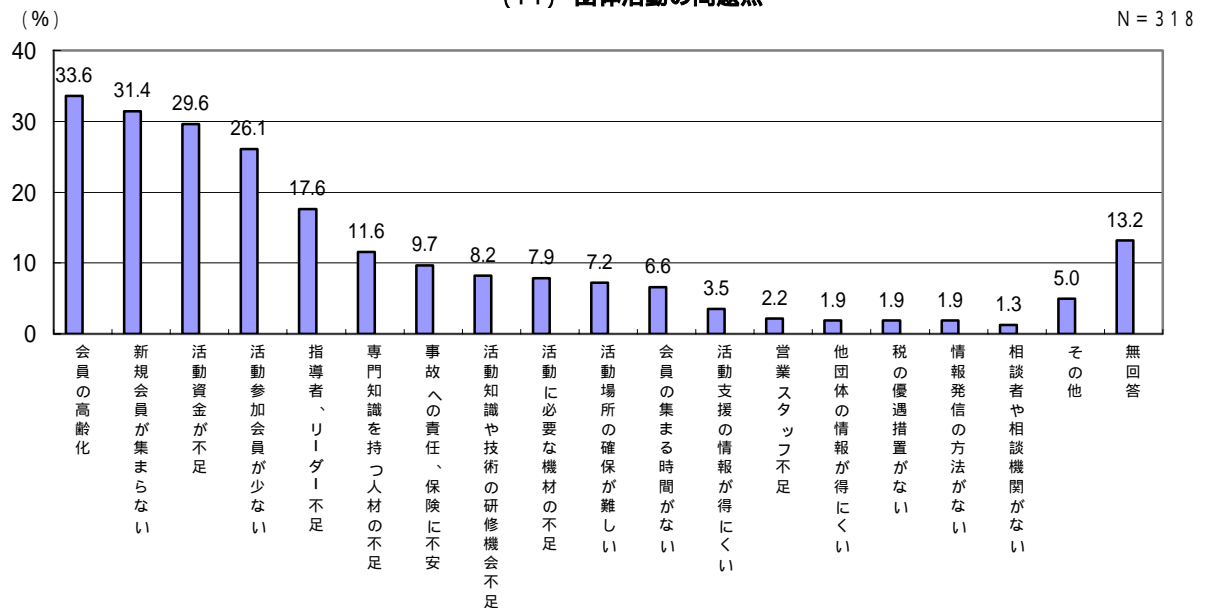
(10) スタッフに必要な知識



(11) 団体活動の問題点(複数回答可)

「会員の高齢化」(33.6%)が1番多く、2番目が「新規会員が集まらない」(31.4%)、3番目が「活動資金が不足」(29.6%)、4番目が「活動参加会員が少ない」(26.1%)であった。

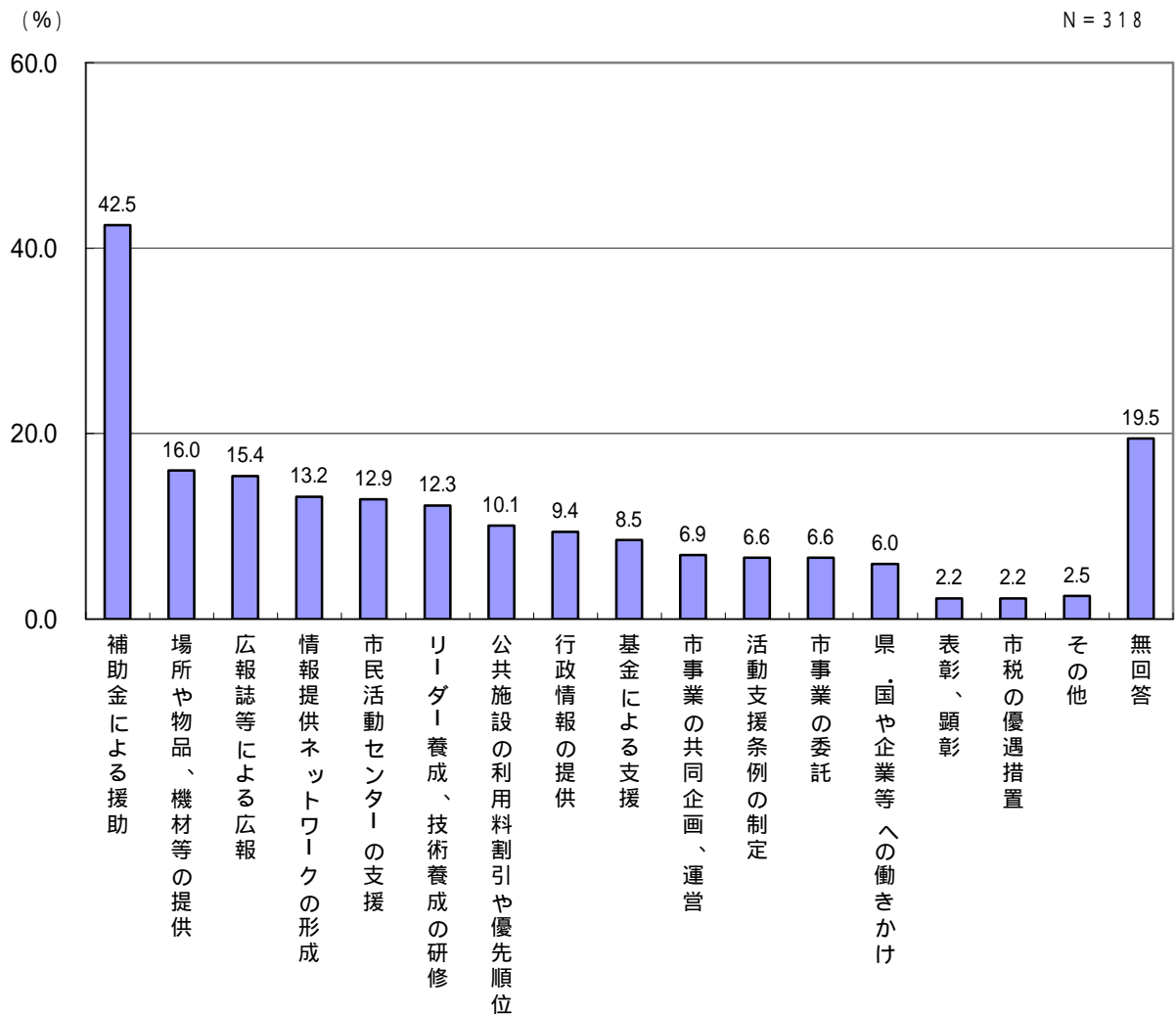
(11) 団体活動の問題点



(12) 市に期待する支援策(複数回答可)

「補助金による援助」(42.5%)で1番多く、2番目が「場所や物品・機材等の提供」(16.0%)、3番目が「広報誌等による広報」(15.4%)であった。次いで「情報提供ネットワークの形成」(13.2%)、「市民活動センターの支援」(12.9%)、「リーダー養成、技術養成の研修」(12.3%)、「公共施設の利用料割引や優先順」(10.1%)、「行政情報の提供」(9.4%)と続いた。

(12) 市に期待する支援策

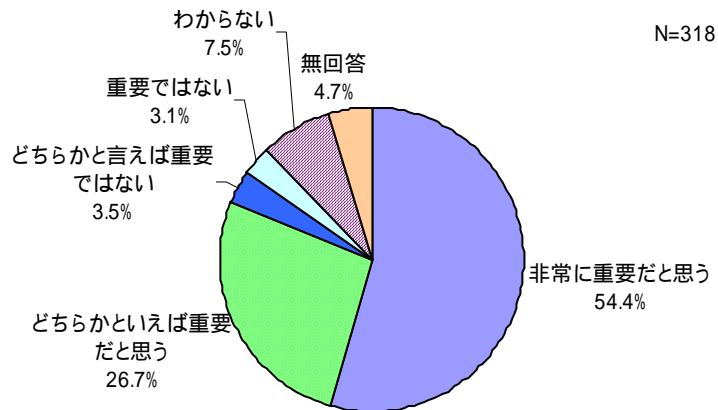




**(13) 行政との協力・協働の重要性**

「非常に重要だと思う」(54.4%)と、「どちらかといえば重要だと思う」(26.7%)で「重要だと思う」が81.1%で全体の8割を超えた。

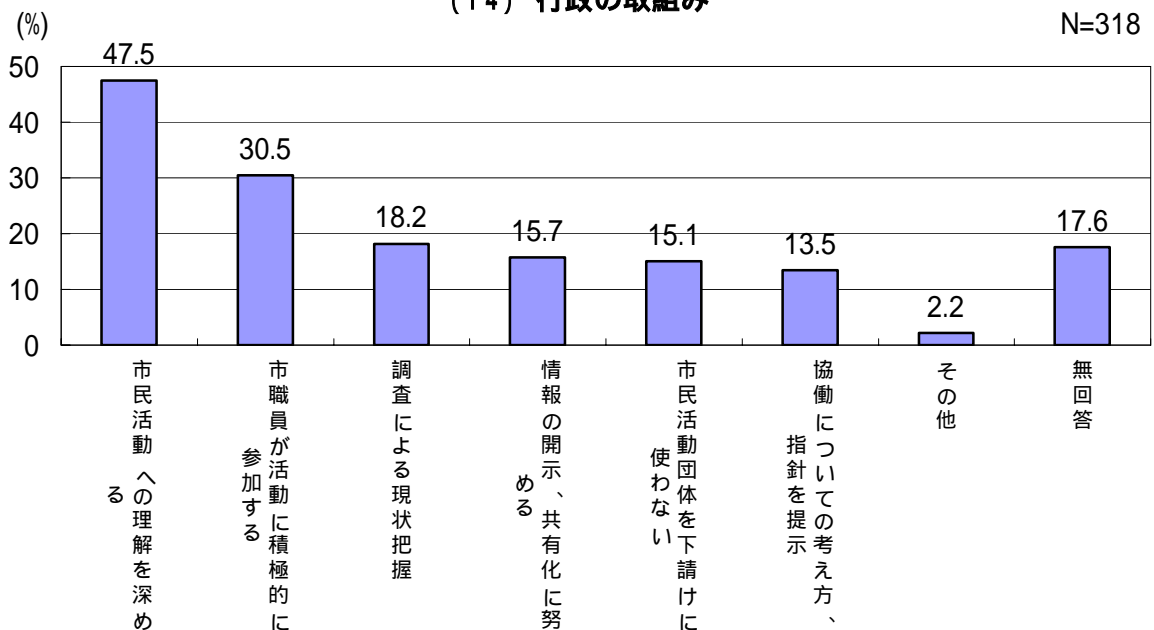
**(13) 行政との協力・協働の重要性**



**(14) 協力・協働のために市が取り組むべきこと(複数回答可)**

「市民活動への理解を深める」(47.5%)と1番多く、2番目が「市職員が活動に積極的に参加する」(30.5%)、3番目が「調査による現状把握」(18.2%)、次いで「情報の開示、共有化に努める」(15.7%)、「市民活動団体を下請けに使わない」(15.1%)、「協働についての考え方、指針を提示」(13.5%)と続いた。

**(14) 行政の取組み**

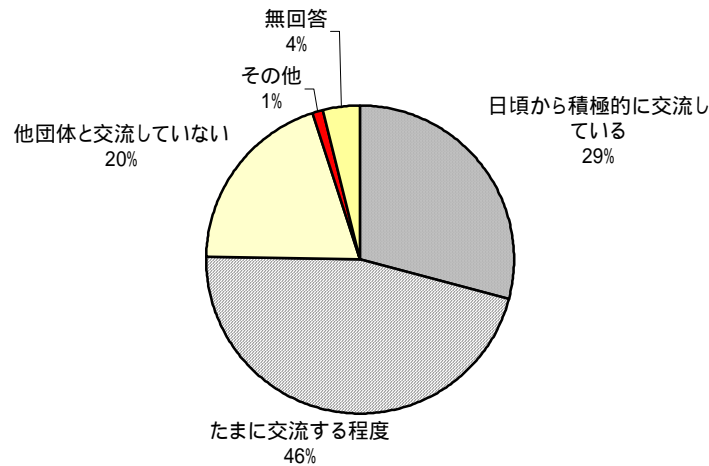


(15) 他団体との交流

「たまに交流する程度」(46%)が1番多く、次に「日頃から積極的に交流している」(29%)で、「交流している」が75%を占めた。一方「他団体と交流していない」も20%を占めた。

(15) 他団体との交流

N=318

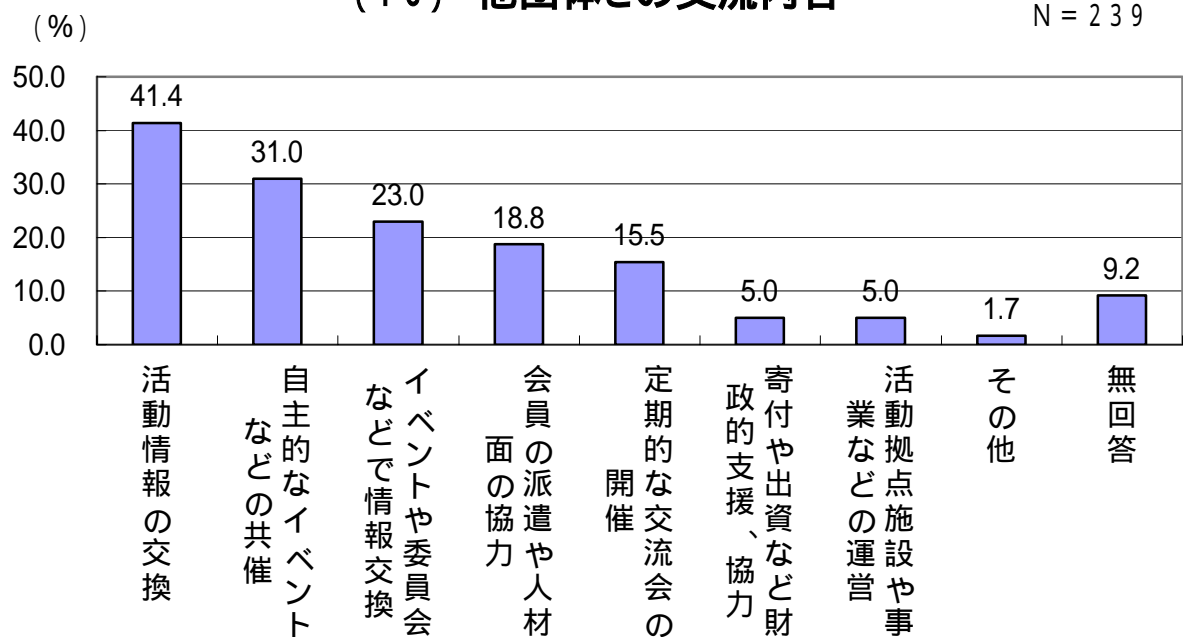


(16) 他団体との交流内容 (上記質問で1又は2と回答された場合)

「活動情報の交換」(41.4%)が1番多く、2番目が「自主的なイベントなどの共催」(31.0%)、3番目が「イベントや委員会などで情報交換」(23.0%)であった。次いで、「会員の派遣や人材面の協力」(18.8%)、定期的な交流会の開催(15.5%)と続いた。

(16) 他団体との交流内容

N = 239

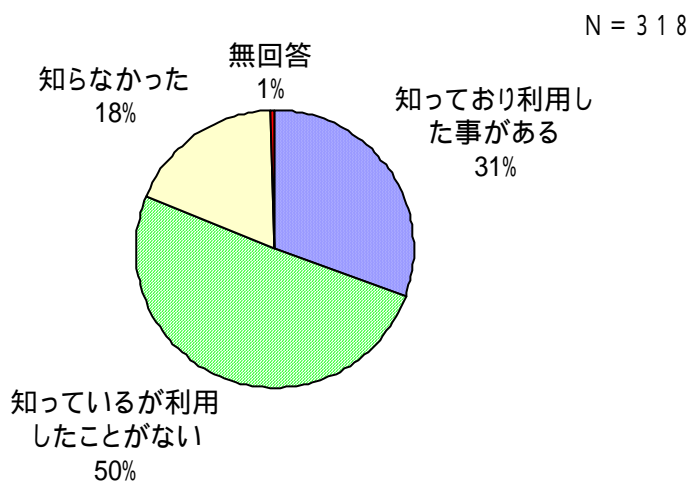


## (17) 市民活動についての主な自由意見

- ・団体との交流不足。1つよりも2つ協力があればさらに大きくなる。
- ・市民活動グループのネットワークができると、情報収集等ができやすいと思う。
- ・宇部市の市民活動の発展を考えると、長年多くの団体が任意団体のままであり、NPO法人への支援センターが必要と思う。
- ・公共施設の使用料を減免してほしい。また、予約を入れる時に、1ヶ月前でないと会議室が利用できないので早くから広報できずに困っている。
- ・会員の高齢化が進むにつれ、新規加入がなかなか見つからずその対策に悩んでいる。そのあたりの市の援助、支援活動も期待する。会員の会費のみの手作り運営であるために、新機材の購入などに限界があり、表現活動の上でも制約される。資金援助を望む。
- ・市民活動団体がお互いの得意分野で交流するためには、市民活動団体の情報が必要だと思う。市はこれら情報提供と調整をしていただきたい。
- ・ボランティア活動でも経費が必要である。規制団体への助成金の見直しとその団体が現在でも必要であるかを再検討し、新ボランティア団体(活動状況による)への恒常的助成金を配慮して欲しい。
- ・横のつながりを持ち、市民活動を広げたい。
- ・市民活動は一見理解されているようで、その実思いのほか理解されていない事が多い。行政の支援もいつも傍観者的なことが多く、戸惑う事も多い。
- ・行政に活動内容を知っていただき、市民の健康づくりの為に協力し合いたい。
- ・市が協働を求めるが、市＝ボランティア・市民活動を無料で使う等式の方がまだまだ多いように思う。
- ・市の担当者が代わる度にまた同じ問題点が起こる。いつまでたっても市の受け入れはない。
- ・個人での市民活動について、宇部市では支援がない。
- ・あくまでも自らの手で行う。行政に頼らない、行政から口出しされない。補助金を出しても自由に使わせる。規約で縛らない。
- ・市主催の市民活動団体向け研修会などの行事をする際は、活動団体側の要望、意見を聞いて欲しい。
- ・地域社会との関わりを嫌がる人が増加、自治会組織を否定する人が増加、このままだと自治会は砂漠化する。
- ・若者の自主的な市民活動の動きは好ましい。動機付けの段階では積極的な支援策が必要。ただし自主性、主体的動きに水をさすようなことはしないこと。
- ・人材不足 同じ人が幾つもの団体を掛け持ちしている人が多い。仕事を持っている人などで、時間的都合がつきにくい人はなかなか参加できない。
- ・市民活動に快く参加される方はいつも決まった方達で、もっと広くたくさんの方達に参加していただくことをいつも悩んでいる。

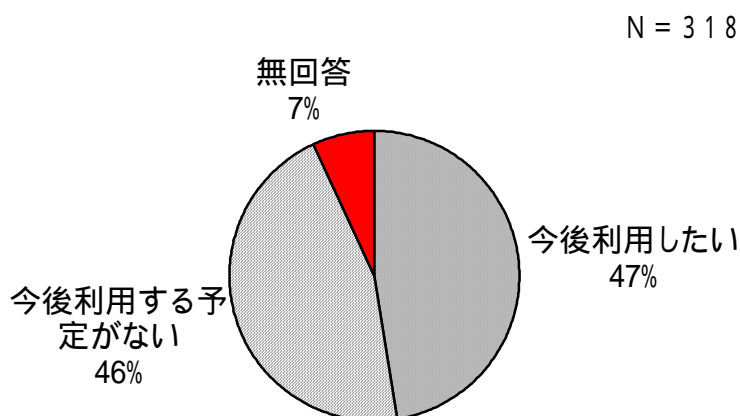
宇部市民活動センターについて  
 (1) 宇部市民活動センターについて  
 「知っているが利用した事がない」(50%) と「知っており利用した事がある」(31%)  
 で「知っている」が80%を超えた。一方で「知らなかった」という団体も18%あった。

(1) 宇部市民活動センターについて



(2) 宇部市民活動センターの今後の利用について

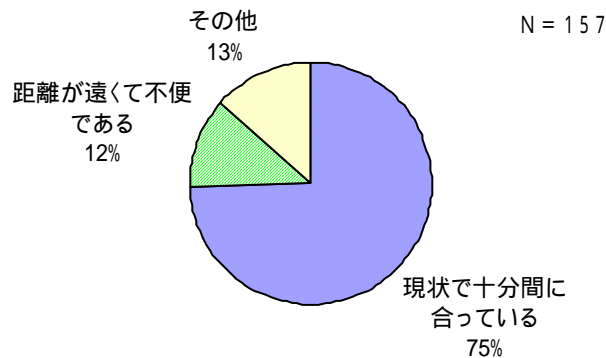
(2) 市民活動センターの今後の利用について



(3)(2)の質問で「今後利用する予定はない」と回答された場合、その理由  
「現状で十分間に合っている」が75%と圧倒的に多かった。

その他の意見として「活動センターをどのように利用していいかわからない」、「他の団体と重なるため会議がしにくい」、「例会には狭い」、「今は利用していないが、今後利用する可能性がある」があった。

### (3) 宇部活動センターを利用しない理由



### (4) 宇部市民活動センターに求めるもの（複数回答可）

「情報の収集、提供」(40.8%)が1番多く、2番目が「場所、物品、機材等の提供」(26.1%)、3番目が「市民、企業、行政とのネットワーク」(23.5%)であった。次いで、「研修、講演、イベントの開催」(18.2%)、「講師派遣等の人的支援」(17.2%)、「広報誌等による広報」(17.2%)、「市民活動等についての相談」(12.2%)と続いた。

### (4) 市民活動センターに求めるもの

